

日本史演習5B－Ⅱ

科目ナンバリング SEM-310

選択必修 2単位

宮川 麻紀

1. 授業の概要(ねらい)

古代史の様々なテーマに関する解説を用意するので、その中から各自一つ選択し、挙げられている史料を載せながら内容を発表する。どのような史料を根拠に、どのような説を述べているか読解し、その要約と自身の考えを発表する。史料も辞書で調べ、書き下し文や現代語訳を述べられるようにする。

発表者以外も、あらかじめ各回の発表で用いる解説を読んでおき、授業内で発表者に対して質問や意見を出す。

2. 授業の到達目標

- ① 古代史研究のテーマや研究動向を習得する。
- ② 解説や論文を読解できるようになる。
- ③ 史料や専門用語を辞書や文献で調べられる。
- ④ 研究上の様々な論点について、自身の考えを述べられる。

3. 成績評価の方法および基準

- (1) 各回の授業での報告と討論への参加50%(到達目標①～③)
- (2) 学期末に提出するレポート(報告内容を発展させ、論文形式にして4000字以上で執筆する)50%(到達目標①～④)

4. 教科書・参考文献

参考文献

村岡薫ほか 『再検証 史料が語る新事実 書き換えられる日本史』 三一書房、2011年
歴史科学協議会編 『歴史の「常識」を読む』 東京大学出版会、2015年

5. 準備学修の内容

- ・受講者は、各回の報告で扱う解説を事前に読み、理解する。
- ・発表者は解説の要旨をまとめ、史料をレジュメに貼り読解する。語句は『大漢和辞典』『日本国語大事典』『国史大辞典』をひいて調べる。
- ・発表内容に関する他の書籍や論文も読み、レポートを作成する。

6. その他履修上の注意事項

卒業論文で日本古代を希望する人は、3年次に履修すること。この演習への参加を通して、卒業論文のテーマを探し出し、卒業論文執筆に必要な史料や論文の読解力を身につけてほしい。また、日頃から関心のあるテーマを探すとともに、各発表の討論にも参加してほしい。

7. 授業内容

- | | |
|--------|--|
| 【第1回】 | オリエンテーション
・演習の進め方の説明
・発表者の決定、発表の仕方の解説 |
| 【第2回】 | 課題の作業
・一つの解説文を読み、要旨を作る。
・引用されている史料を輪読する。 |
| 【第3回】 | 発表と討論①
・発表者による解説文の要旨・説明の発表、参加者による討議 |
| 【第4回】 | 発表と討論②
・発表者による解説文の要旨・説明の発表、参加者による討議 |
| 【第5回】 | 発表と討論③
・発表者による解説文の要旨・説明の発表、参加者による討議 |
| 【第6回】 | 発表と討論④
・発表者による解説文の要旨・説明の発表、参加者による討議 |
| 【第7回】 | 発表と討論⑤
・発表者による解説文の要旨・説明の発表、参加者による討議 |
| 【第8回】 | 発表と討論⑥
・発表者による解説文の要旨・説明の発表、参加者による討議 |
| 【第9回】 | 内容を発展させた発表と討論①
・解説文に関連する諸説の発表、参加者による討議 |
| 【第10回】 | 内容を発展させた発表と討論②
・解説文に関連する諸説の発表、参加者による討議 |
| 【第11回】 | 内容を発展させた発表と討論③
・解説文に関連する諸説の発表、参加者による討議 |
| 【第12回】 | 内容を発展させた発表と討論④
・解説文に関連する諸説の発表、参加者による討議 |
| 【第13回】 | 内容を発展させた発表と討論⑤
・解説文に関連する諸説の発表、参加者による討議 |
| 【第14回】 | 内容を発展させた発表と討論⑥
・解説文に関連する諸説の発表、参加者による討議 |
| 【第15回】 | 課題の作業
・一つの解説文を読み、要旨を作る。
・引用されている史料を輪読する。 |